

マッスルヘルス

—低栄養・肥満・カヘキシアの統合管理

特集にあたって

「この患者はサルコペニアか、それとも低栄養か」—こうした問いを、日々の臨床で感じたことがある医療者は少なくないだろう。診断基準ごとに分断されてきた評価の枠組みが、現場での判断をむずかしくしてきた。

近年、この状況に大きな変化が生まれつつある。2024年から2025年にかけて、アジアのサルコペニア基準(AWGS 2025)、国際的なサルコペニア定義の統一をめざすGLIS、低栄養の国際診断基準であるGLIMが相次いで更新・成立した。これらに共通するキーワードが「マッスルヘルス(muscle health)」—筋肉の量・質・機能を軸に、低栄養・肥満・カヘキシアを統合的に管理するという考え方である。

本特集「マッスルヘルス—低栄養・肥満・カヘキシアの統合管理」は、この概念の転換をまず総論で整理し、各論として診断・病態・栄養処方・社会実装の各論点を専門家に論じていただく構成とした。50代からのサルコペニア早期評価、サルコペニア肥満の診断アプローチ、カヘキシアとの不可逆ライン、同化抵抗性に挑む栄養処方、ICD-11対応と診療報酬の展望、筋肉を全身の健康バロメーターとして捉える未来像—各論は互いに連動し、一本の臨床論理を形成している。

本特集が、多職種で「マッスルヘルス」という共通言語を使い始めるきっかけとなれば幸いである。

熊本リハビリテーション病院 サルコペニア・栄養支援センター

吉村芳弘